

結婚式前夜〜長男 翔平篇〜

作 山口雄大（横浜 劇団麦の会）

登場人物

夫 妻

仲居（数名）

夫妻入ってくる、仲居さんが入ってくる

仲居 失礼します〜ビールお持ちしました〜

夫 あ〜どうも〜

仲居 グラスはおいくつ？

夫 とりあえず 二つで

仲居 (グラスを二つ置いて) いつでもお声をかけてください。失礼いたします

夫 はい、どうも

仲居消える。

夫、ビールを注いで飲んだりして、妻は、落ち付かない感じ

夫 少し落ちついたらどうだ？お前もビール飲むか？

妻 女房酔わせてどうしようって言うんですか？

夫 どうもしないよ〜何が気に入らない？明日は翔平の晴れの日じゃないか

妻 瑠璃子さんのでしょ

夫 翔平と瑠璃子さんのだよ。二人が運命の糸に導かれて出会ったのが、この温泉旅館だそう。二人の思い出の場所から手に手を取って、これからの人生を歩んでいこうと決めたんじゃないか。お前にも覚えがあるだろう。

妻 そんなこと、思い出させて、私をどうしようっていうんですか？

夫 どうもしないよ。瑠璃子ちゃん、言ってたじゃないか、「今まで、お世話になったお父様とお母様に、ゆっくりと温泉で、体を休

めて頂いて、これからの、二人の人生を見守っていただきたい」なんてなく泣かせることを言ってくれよ。できたお嬢さんだ

妻 単純ね。そんな口から出まかせに、コロツと騙されて

夫 騙す？

妻 嘘に決まっているじゃないですか、恩にきせて、信用させて、牙を、むくんですよ、詐欺師の手口ですよ

夫 バカじゃないのか？

妻 翔平はもう少し女性を見る目があると思ってましたよ。大学時代に付き合っていた日菜子さんの方が、おしとやかで

夫 おいおい、そんな別れた女の話なんかするなよ、今は関係ないだろう

妻 まったく、がっかりだわ、早くビールくださいよ

夫 飲むのかよ

妻 あなたが「飲むか？」って誘ったんじゃないですか？あれ？もしかして始まっちゃった？面倒見ませよ、私は面倒見てもらいます

けど

夫 (ビールを注ぎ) はい、どうぞ

妻 泡ばっかり(飲む)

夫 そうはいつでも、いいお嬢さんじゃないか、私は好きだなあ、あんな感じのお嬢さんは

妻 じゃあ、あなたが結婚すればいいじゃないですか

夫 (まんざらでもない) おいおい、無茶言うなよ

妻 嬉しそうに(飲み干し) もう一杯

夫 ゆっくり飲めよ

妻 まったく、なんですか！あなたまで！

夫 なにが？

妻 瑠璃子さんが、初めて来たときから鼻の下をダラダラと伸ばして

夫 ダラダラって、人の鼻を鼻水みたいに言うなよ

妻 分かっています！はいはい、よくよく分かっております。あなたも翔平も、瑠璃子さんのポインにイチコロだったんでしょ

夫 (ビールを噴き出す)

妻 汚い！五類になったからって、何してもいいわけじゃないのよ！

夫 (拭きながら) ババババババカなことを言うんじゃないよ！

妻 何回「ば」を言えば気が済むんですか

夫 馬鹿なことを言うもんじゃない

妻 ダラダラニヤニヤタラタラチヨロチヨロ、ムキになっちゃって、私、瑠璃子さんを一目みてピュ〜ン！と来たんですよ。

夫 なにが？

妻 あ〜〜〜これは、あなたのタイプだなんて

夫 関係ないだろう。翔平が結婚するんだから

妻 思い出したんですよ。私は

夫 なにを？

妻 小学校4年生の夏休み、あなたの家に遊びに行った時

夫 小4？そこまでさかのぼるのか？何かあったか？

妻 あったなんてもんじゃないですよ、生まれて初めて殿方の部屋に通されて

夫 殿方？

妻 壁には小学生らしく日本地図や九九の表が貼ってありました

夫 何の話をしているんだ？

妻 カルピスを頂きました。うつすいカルピス

夫 だからなんの話？

妻 何か感じるんです。胸騒ぎがするんです。「3時のあなた」の心靈写真コーナーを見ているときのような、落ち着かないお尻の辺

りがムズ痒い・・・その時感じたんです

夫 なにを？

妻 視線です。それも上から天井からの、勇気を振り絞って恐る恐る見上げてみましたそしたら！

(口を押える。音響悲鳴)

夫 どうした？

妻 天井にドカーン！と貼ってあった「アグネスラム」のポスター！小麦色の肌にビキニからこぼれ落ちそうなポイン！も〜トラウマ

です、小4で天井からアグネスラムのポイン！

夫 昭和の話だろう、あれはアニキから貰って

妻 月日は流れ大学生の頃ですよ、あなたの一人暮らしのアパートですよ、緊張していました。幼馴染とはいえ殿方の部屋へ年頃の

娘が

夫 殿方やめろ

妻 でも、高ぶる気持ちになかったと言えば嘘になります。ちよつとぶりっ子しすぎたかなあなんて、反省したりして、あなたは「何

か飲む？」なんて言いながら台所の冷蔵庫をのぞき込んで・・・その時感じたんです。

夫 なにを？

妻 視線です。どこかで感じたことのある天井からの視線。恐る恐る見上げてみました。そしたら！

(口を押える。音響悲鳴)

夫 なんだよ

妻 そこにはビキニ姿で、あたしを見下す、「小泉今日子」が！再びボインの洗礼が！

夫 お前はさつきから、なんの話をしているんだ？わけのわからない

妻 わけは分かるでしょう？何かおかしいですか？キュートなヒップにズキンドキンですか？

夫 おかしいだろう、ここで小4や大学時代の話や

妻 私は、そんな話はしていません、上から天井から私を見下す、「アグネスラム」と「小泉今日子」の話をしているんです

夫 2023年だ、令和5年の六月にアグネスラムの話で熱くなっているのは日本中探しても、お前だけだぞ

妻 元はといえば誰のせいよ

夫 「キョンキョン」は関係ないだろう

妻 ほら、かばう！

夫 かばうも何もポスターの話だろう

妻 てか、今、いい年して「キョンキョン」とか言わなかったか？

夫 言ったっていいだろう別に

妻 なにが「キョンキョン」だよ、「キョンシー」見たいな顔しやがって！

夫 「キョンシー」ってなんだ

妻 （ビールなくなる）ちよっと！ビールないよ！

急に仲居 現れる

仲居（ ）お待たせいたしました

妻 はや!

仲居 () ビール追加、何本?

仲居 () 二百本ほど、お持ちしますか?

妻 そんなに結構です、一本で

仲居 () そちらの殿方は?

夫 一本で

仲居 () 合わせて八十本ですか

夫 いやいや二本です

仲居 () すいません、数学に弱くて

妻 算数ですよ

仲居 () では、(ビールを出して) こちらの方で、

仲居 () それでは、失礼いたします

仲居去る 妻、ビールを行儀悪く飲む

妻 こうなったら、この結婚自体をなかったことにする方法はないかしら、瑠璃子さんが翔平に幻滅して、

顔も見たくなくなるような、そんな人生の汚点はないかしら

夫 息子の汚点をさらしてどうするんだよ。

妻 母親として、息子の幸せを願えばこそです

夫 いい加減にし

妻 あなたはどうだったんですか？

夫 なにが？

妻 私と結婚して幸せですか？

夫 なにを、馬鹿なことを

妻 馬鹿な事？いま馬鹿なことって言いましたか？「私と結婚して幸せですか？」という妻の問いかけに対する答えが、半笑いで「馬

鹿なことを」とは、どういうことですか？

夫 酔ってるのか？

妻 あなた言いましたよね！「キョンキョン」がビキニ姿で見下す部屋で、私の手を握り、瞳を見つめて

「君と一緒にいるために僕は生まれてきた」って！言いましたよね！その顔で！

夫 忘れたよ、そんな昔のことは

妻 ほら！それが答えなんですよ。そんな最悪な結末が待ち構えている、結婚生活に大事な息子を行かせるわけには

夫 いや～幸せだよ～幸せだ

妻 ヤケクソじゃないですか！

夫 落ち着いてさ、考えてみようじゃないか

妻 なにをですか？

夫 結婚とはなにか。夫婦とはなにか。幸せとはなにか。生きるとは何かをさ

妻 そんな大げさなことを、今から考えるんですか？そんなことより、翔平の人生の汚点を

夫 お前はどうかんだ？お前は私と結婚してって、聞いてねえなあ

妻 (ビールを飲みながら) あくまでも向こうから、断ってきたという形にしないと、キャンセル料だって馬鹿にならないし、敵を悪

役に仕立てなくては

夫 悪い顔してんなあゝ

妻 あ！思い出した！あの子が中学生の頃、押し入れの天袋の所にアイドルの水着の写真集を隠してあったんですよ、ウシシシシ

夫 探すなよ、そんなの

妻 なんて言ったかなあゝポインのアイドルで

夫 榊原郁恵？河合奈保子？柏原よしえ？

妻 古いなあゝ昭和かよ！

夫 かとうれいこ？向井亜紀？杉本彩か？

妻 もっと、若いって

夫 雛形あきこ？佐藤珠緒？リア・デイゾンだ！

妻 違うって！いうか、よくそんなに、ポンポンポン次から次へと名前が出てくるなあゝさすが、

 ポインの家元ねゝあゝなんだっけなあゝ

夫 ほしのあき？井上和香？

妻 違う！名字のない人

夫 名字がない？イチロー？

妻 なんてだよ！

夫 ベツキー？

妻 違うなあゝ

夫 あ！MEGUMIだ！

妻 近い近い！

夫 優香だ！

妻 それだ！それぞれ！あくすつきりした、っていうか、意味あるの？この盛り上がりは？
夫 年頃の男子なら健全なことだよ（ビールを飲みながら）
妻 もく疲れた、露天風呂行ってくる
夫 気をつけてな

妻 出て行く

残った夫

夫 （ビールがなくなった）あの

仲居（ ）ビールお持ちしました

夫 早いね

仲居（ ）リア・ディゾン、なかなか出てこないですよ

仲居（ ）いよ！家元！

夫 どうも…

仲居（ ）失礼いたします

夫 なんだかな

一人ビールを飲みながら

おしまい

「結婚前夜〜長女すず篇」

登場人物

夫

妻

長女すず

しずかちゃん

しずかちゃんのパパ

仲居さん

作 山口雄大（横浜 劇団麦の会）

夫妻 再び現れる

相変わらず、仲がいいのか、悪いのか？

妻 お茶でも飲みますか？

夫 いない

妻 まったく何が気に入らないんだか、明日はずの晴れの日だっていうのにフッフッフ

夫 嬉しそうに：

妻 嬉しいじゃないですか、おめでたいじゃないですか

夫 私はまだ、この結婚を許したわけじゃないからな

妻 いつまでそんな、寝言みたいなこと言ってるの？明日です！明日、手塩にかけて育てた可愛い娘が、旅立っていくんです。

夫 お前が旅立てよ、やかましい

妻 「この結婚を許す」って最後は言ったんですからね。

夫 それはだな

妻 すぐに泣かれて「お父さんに似ている人だから、喜んでくると思ってたのに」って、プリプリの歌詞みたいな、殺し文句にあっさり殺されて

夫 似てねえだろう？

妻 似てませんよ。向こうはジャーニーズ系、顔だってこんなに、ちいさいちいさい、

夫 たのきんで、言ったら誰だ？

妻 古いなあ〜昭和かよ！

夫 言ってみろ、たのきんで言ったら誰だ？ヨッチャンなら、話し合う余地はある
妻 バカバカしい。（新聞を広げて）あらーあなたー新しい元号は「令和ですって」

夫 いつの新聞読んてるんだよ

妻 冗談ですよ、笑顔で生きて行きましようよ〜（浮かれている）

夫 まったく、浮かれてんじやねえっていうの

仲居がお酒を運んでくる

仲居 お待たせしました。熱燗でよかったですか？

夫 ありがとうございます

仲居 それでは失礼いたします

仲居去る

夫 あ〜あ〜（飲み始める）

妻 昼間っから飲むか？

夫 これが飲まずにいられますかってんだよ！あ〜も〜まだ早いだろう、あの年で、まだまだ子供だろう

妻 ♪超えていますよ。アラサーじゃなくてアラフォーですよ。

夫 昭和の物差しで測るとだろう。令和の♪なんて昭和の♪ぐらいだろう

妻 昭和の♡だったとしても、私はあなたに手籠にされてましたよ、

夫 (お酒を吹き出す)

妻 汚いなあ〜2、3年前ならつまみ出されてますよ!

夫 お前みたいなの、ふしだらな女とすずを一緒にするな!まったく!

妻 あの話知ってます?

夫 どの話だよ?

妻 しずかちゃんの話ですよ

夫 どの?

妻 ドラえものの、しずかちゃんですよ

夫 いつもお風呂に入ってる?

妻 そのしずかちゃんが、のび太さんと結婚することになって〜

夫 はああ?のび太と?しずかちゃんが?ありえね〜どんなインチキな道具使ったんだ?

妻 ちよつと黙って〜今からいい話が始まりますから、あちらをご覧ください、のび太さんとしずかさんの結婚式前夜の出
来事です

しずかちゃん 「パパ、お休みなさい。」

いったん出て行くこととするが、パパのもとに戻ってきて

しずか 「パパ、私、お嫁に行くのやめる!」

夫 やった〜
妻 うるさい！

パパ 「しずか…」

しずか 「私が行っちゃったら、パパ淋しくなるでしょ？」

パパ 「それは勿論だ」

しずか 「これまでもずっと、甘えたり、わがまま言ったり、それなのに私は、私からはパパやママに何もしてあげられなかったわ」

パパ 「とんでもない、君は僕らに素晴らしい贈り物を残していつてくれるんだ。

しずか 「贈り物？私か？」

パパ 「そう数えきれないほどのね。最初の贈り物は君が生まれてきてくれたことだ、午前〇時頃だったよ君の産声が天使のラッパみたいに聞こえた、ハハハあんなに楽しい音楽は聴いたことがない、病院を出た時、かすかに東の空は白んではいたが、頭の上はまだ、一面の星空だった、この広い宇宙の片隅に僕の命を受け継いだ宝が今、生まれたんだ、そう思うと、むやみに感動しちゃって涙が止まらなかったよ…それからの毎日、楽しかった日、満ち足りた日々の思い出こそ君からの最高の贈り物だったんだよ…少しぐらい淋しくても、思い出が温めてくれるさ、そんなことは気になんなくていいんだよ」

妻 どうですか？あなたも人の親なら、しずかちゃんのパパの気持ちわかるんじゃないですか？
夫 （泣いているのか？）

妻 あの子もたくさんの思い出を私たちに残してくれたじゃないですか？

夫 なあ…

妻 なんですか？

夫 本当のび太としずかちゃんは結婚するのか？

妻 どうでもいいでしょ！今それは！

再び始まる

しずか 「パパ…わたし、不安なのうまくやって行けるかしら」

パパ 「やれるとも、のび太君を信じなさい、君の判断は正しかったと思うよ。あの青年は人の幸せを願い、人の不幸を悲しむことのできる人だ、それが一番、人間にとって大事なことからね彼なら間違いなく、君を幸せにしてくれると信じているよ

しずか パパ…

劇中劇終わる

妻 いいお話ですね

夫 で？

妻 で？って

夫 結構なプレッシャーだと思うよ、しずかちゃん役をやらされる役者さんは

妻 もういいです！私も一杯くださいな
夫 はいどうぞ
妻 （飲んだりして）そういえば知ってました？あなた、今、波平さんと同じ年ですよ
夫 波平？って、磯野？
妻 そう、磯野さんちの波平さん。サザエさんのお父さん
夫 同じ年？
妻 そう、先月の誕生日でタメ！
夫 波平さんていくつだ？
妻 だから、あなたと同じ年ですよ、ですからここは、昭和の男らしく、潔く娘を送り出してあげるのが、昭和の父親の威厳って奴じゃないですか？
夫 威厳？そんなもん給料が銀行振り込みになった時から、なくなってるわ！そうでしょう？そこのお父さん！
妻 えらく頷いてらっしゃる！
夫 まったく（新聞を見る）は！大本营発表！
妻 （酒を吹き出す！）
夫 おい！世が世なら打ち首だぞ！
妻 変なこと言わないでよ！
夫 笑顔が必要何だろう！お前、磯野舟さんより、先輩だからな
妻 やめてくださいよ
夫 そう考えると！長いこと生きてきたなあ！
妻 そうですな！

夫 波平と同じ年かくなんだか、感慨深いね〜よかった

妻 何がですか？

夫 髪の毛あつて

妻 もういいですよ。話戻しますけどね、言っておきますけど、あなたも私の父に大反対されていますからね、

しずかちゃんパパ、部屋に入って来て

パパ 「あんな、どこの馬の骨ともわからんような奴に、大事なうちの娘をやれん！」

夫 この人は、しずかちゃんのパパだろう

妻 「お父さん、お願いですこの人と一緒にになりたいんです」

パパ 「ダメだと言ったらだめだ！」

妻 「お父さん、喜んでくれたじゃないですか！幼稚園のさくら組の時に、私をお嫁さんにしてくれるって！この人が言うてくれた時に」

パパ 「幼稚園の話だろう！」

妻 「今はダメだっていうの？」

パパ 「悪いことは言わん！やめなさい！お父さんの見る目を信じなさい」(消える)

妻 あの時、父の人を見る目を信じていたら、こんな事にはならなかった

夫 どういう意味だよ

妻 私の父の反対のには、しっかりとした根拠があったんです。今のあなたには根拠も確たる裏付けも、何も無いじゃないですか？

夫 そんなことはないだろう！

妻 あんなに反対されたのに、私をかどわかして

夫 さつきから、騙された体で話すのやめてくれないか？そもそも、「すず」なんて変な名前付けやがって！

妻 いい名前じゃないですか？父が考えてくれた名前です

夫 「命名 すず」って書いたとき、腰から砕け落ちたわ。は？なに？ひらがなニ文字？勘弁してくれよって感じだった

だろゝあの時の空気は？最近だよ。広瀬すずが出てきて、やっと受け入れることができるようになったのは。

妻 今になってそういう言い方はないんじゃないですか？あの時に言えばいいじゃないですか

夫 今になったから、言えるんだよ！あの時言えなかったから、今言ってるんだよ！

妻 まったく、すずのことになると、ムキになって、言っておきますけどね、あの子、あなたの洗濯物と一緒に洗濯すると、

怒りますよ。だから私、言ってるんです。「何言ってるの！洗濯ぐらいなんですか！私は結婚しちゃったんだよ！」

って

夫 どういうことだよ

妻 あなた、言ったんですよ、頑なに反対する父に向かって、「陽子さんを、一生かけて幸せにします！信じてください！」

って、あのゝまだですか？もうすぐ、一生終わりますけど

夫 お前だって、ワンレン、ボディコンで、私の腕にしがみついて「今夜は帰りたくないのゝ」って帰れよ！とつとと、帰

れば、こんな事にはならなかったんだよ

妻 バブルの絶頂期ですよ！日本中がどうかしていたんですよ。私もどうかしていたんですよ！

娘。すずが入ってくる

すず あの〜

夫 あ〜どうした？

すず ちよつと、落ち着こうか？

夫 そうだな、そうだ、落ち着きが大切だな

すず お父さん、あのね

夫 ちよつと待った、今の母さんとの話は？

妻 聞こえてた？

すず 立ち聞きはよくないとは、思っていたけど〜ちよつと、ちよつとだけね

夫 ちよつとだけって、かとちゃんみたいだなハハハハハ

妻 どの辺りから聞いてた？

夫 バブルの頃の話か？

すず もうちよつと、前かな？

妻 磯野波平と同級生って所？

すず もうちよつと前かな

夫 しずかちゃんとパパの話か？

すず 令和の35は、昭和の23って所？

妻 最初の方じゃないの！

すず まあ、そうだね

夫 さて、(お酒がなくなる) もう一本飲むかな〜

(おしまい)